

令和6年度 第3回学校運営協議会 会議録

日時 令和7年3月17日（月） 15：30～16：45
場所 会議室
出席者 委員：鈴木、小原、酒井、二瓶、新倉
職員：校長、副校長、教頭、小杉、石川、宮崎、岩崎、村山、渡邊

次第

- 1 校長より
- 2 令和6年度 学校評価報告書〈実施結果〉について
- 3 令和6年度 県立高校指定校事業実施報告書について
- 4 令和6年度 横浜立野高等学校不祥事ゼロプログラムの検証等
- 5 学校評価部会、地域連携部会、キャリア教育部会 意見交換
- 6 その他

会議内容

■ 1 校長より

- ・入試選抜、卒業式が無事終了、新年度に向け準備をしているところである。

■ 2 令和6年度 学校評価報告書〈実施〉について

①教育課程・学習指導

職員：授業力向上推進について、主体的な授業作りは概ね達成できている。しかし主体的な授業の中で発言や取り組みの差があり、これを評価・成績にどのように関連付けるかが課題である。

②（幼児・児童）生徒指導・支援

職員：行事について、体育祭や文化祭は生徒の希望に沿い、生徒が主体となって運営する方向で実施できた。その中で生徒を助けようと教員側が善意で手伝うことで逆に生徒を混乱させてしまう場面もあった。学校全体で生徒の取り組みを見守る体制を共有していきたい。

職員：今年度は3学年のS C・S S Wの利用が増えた。しかしこれはよく活用してくれた、カウンセリングへと繋げることができたということであると実感している。

③進路指導・指導

職員：指定校推薦や総合型選抜試験などを用いた年内での進路決定がほとんどであり、一般

入試の生徒はごく少数となっている。年々一般受験の生徒は減少傾向にある。生徒の進路希望や決定時期の希望に沿うように、小論文や面接、プレゼンテーションなどの昨今の様々な課題の支援をしていきたい。

④地域等との協働

職員：2週間間隔で地域清掃、間門小学校にお伺いしてのあいさつ運動や見守り運動を実施できた。今年度予定していた横浜インターナショナルスクールとの連携が実施できなかった。

⑤学校管理・学校運営

職員：校舎をきれいなまま維持して使っている、清掃はできているが、老朽化してきた部分もあるため、細かく見てていきたい。

職員：防災については避難訓練など計画していたことは問題なく実施できた。一人一台端末を活用しての防災意識のさらなる強化もしていきたい。

⑥広報活動

職員：HPの扱いを今後も検討していきたい。次年度は迅速に更新するよう体制を整えていく。広報活動は次年度に向けて反省と引き継ぎをまとめている。今年度導入した新しい端末も積極的に使っていきたい。

職員：いのちの授業やJICAなど外部との連携も含め、授業力向上につなげていきたい。

■ 5 学校評価部会、地域連携部会、キャリア教育部会 意見交換

・入学者選抜について

職員：前年度の高い倍率を維持できている。入学希望者の増加についてはSNSや部活動の活躍が関係しているのではないか。さらなる分析が必要である。受検者の中で学力に大きな差がある。入学後の授業や講座の編成も考える必要がある。入学後のケアをしっかりしていきたい。

委員：不登校の生徒への対応は。

職員：不登校生徒に対して通信制のような新たな制度がある。自宅からでも学習に遅れが生じないような環境は整えているが、現実には大きな困難を伴う。出欠席の数だけで未履修にならないような対応を工夫し実施していく。

・登校が難しい生徒についての対応

委員：一人の生徒にかける時間の削減（教員の働き方改革も関係しているのではないか）で生徒の世話を焼くことや行事の削減も昨今ある。不登校の生徒に対しても難しい問題である。手が回らない、時間が足りないこともあるのではないか。

委員：小学校という義務教育と高校では対応で異なる面もある。義務教育では登校していく
も在宅でも学習の支援を実施するように考えているが、高校では学校へ行かないと
卒業や単位に直接影響がある点が義務教育と違う面である。

職員：本校でも遅くまで学習指導をしている様子が多々見受けられる。高校に無理して通い
つづけることが生徒本人の幸せなのか、他に通信制など良い選択肢があるのでない
いか、不登校などの原因をしっかり確認、話をする必要がある。

職員：学校をやめてしまう生徒、不登校の生徒は「学習面」での悩みは少ないと感じている。
人間関係や朝起きることができないといった問題がほとんどである。

職員：無理をさせて進級させるだけでなく、一人ひとりに目を配り、生徒の不利益にならな
いようにしていきたい。

委員：退学や転学した生徒の後追いはしているのか。

職員：こちらから連絡をとることは難しいが、報告をしてくれる生徒もいる。

職員：世の中の当たり前や縛りについても変わっていくのではないか。生徒が元気でいるこ
とがなにより一番である。

職員：悩みを抱える生徒に対しての聞き取りを時間を確保し詳しく行うようにしている。そ
うすることで本校を辞めても嬉しそうに次の進路の報告をしてくれる生徒も實際
にいる。その生徒にとっては本校にいるより新たな進路がその生徒の幸せだったの
だと感じられる。

・学習支援について

委員：不登校の生徒ももちろんだが、頑張って学校に来ているが苦労している生徒、勉強な
どで悩んでいる生徒にも手を差し伸べてほしい。

職員：夏期講習の実施があまりされていないことについて、塾で勉強しているから十分だと
いう生徒が多い。教員と生徒の熱量の差があると実感している。

職員：模試やスタディサプリなどの学習サポートも実施しているが、本校生徒は一般受験が
少ないため、ここでも教員と生徒の熱量の差がある。一般受験の生徒にはしっかり個
別で対応していく。

職員：以前は月1回ほど模試や試験があったが、例年減少している。しかし進路や受験方法
が多岐に渡る中で、教員の進路指導に費やす時間は増えてきており、夏期講習や模試
だけでは対応しきれない傾向にある。また勉強の相談より、人間関係などの相談も多
い。

職員：部活動を頑張り、良い成績を収めている生徒は一定数いる。ここは時間の使い方や効
率の良さを部活動でも学んでいるのではないか。

委員：D I G研修とは何ですか。

職員：防災研修。白地図に危険区域や災害状況を書き込むことでゲーム感覚で災害対策を学
習できるツールである。

委員：小学校の方で避難場所について再検討している点もあり、立野高校が緊急避難場所になる可能性もある。